



周囲の人たちとの繋がりが 私の学生生活を支えています

大学院医学研究科 医学専攻 3年

Tserensonom Munkhtsetseg

(ツェレンソノム・ムンフツェツェグ) [モンゴル]



研究室にて



日頃の疲れや悩みを癒やしてくれる眉山からの眺め

私はモンゴルからの留学生でツェレンソノム・ムンフツェツェグと申します。令和2年の10月に徳島大学大学院医学研究科博士課程に入学し、動脈硬化性疾患の高リスク患者における大動脈弁の石灰化と血清リポ蛋白との関連について研究しています。

モンゴル国立医科大学の学生だったとき、応急処置のサークルに所属していました。年に2回ほど、日本の東京有明医療大学保健医療学部の先生方が来られ、サークルの学生を対象に「柔道整復」と呼ばれる手技療法についての指導をしてくださいました。その指導を通して、身の回りにある道具でも工夫次第で治療に役立てられること、そのために人体の構造をしっかりと理解した上で冷静に行

動することの必要性といった、医師にとって最も基本的なことを教わりました。それだけでなく、言語の壁がある中でも親身になってくださるなど、理想的な医師としての姿に強く感銘を受けました。それ以来、この先生方のようになりたいという憧れの気持ちが強くなり、日本の大学への留学を決意しました。

徳島大学大学院に入学したときは日本語が全く理解できず、はじめての外国での生活ということもあり、困難を乗り越えられるか不安でした。しかし、周りの親切な方々の支えや自然に囲まれた環境のおかげで、研究活動に集中して取り組むことができましたし、日本語の授業に参加し意識的に日本人と関わる機会を増やしたこと

で、徐々に日本の方とも打ち解けるようになりました。伝統文化である阿波踊りをはじめ、地形を活かしたアクティビティや全国的に有名な渦潮など、徳島はここにはない魅力であふれています。蔵本キャンパスは眉山に隣接しておりアクセスしやすいため、気分転換のために登ることがよくありますが、頂上から眺める景色はとても美しく、日頃の疲れや悩みを癒してくれれます。徳島で知り合った友人とそういった時間を共有することが、私の楽しみの一つになりました。

私が所属する循環器内科学分野は研究活動がとて活発に行われており、精力的に学会発表などもしています。多くの著名な研究者を前に自分の研究成果を発表す

ることで、見聞を広げることができ、一方、自分の意見を発信していくことの難しさを痛感することもあります。しかし、このことで一層勉強して研究を工夫してみようという原動力が生まれますし、自分の成長にも繋がっています。周りの方々と触れるたびに、日本人の心の暖かさや豊かな感性など見做すべき人間性に気づかされ、今では私自身も日本で医師として働くことが目標になりました。熱心に指導してくださる先生方の期待に応えるためにも、残りの学生生活を充実させていきたいと思えます。



阿波踊りに参加したモンゴル人留学生の友人達



AHA Scientific Session 2022 (初めての海外学術学会)